

(陳受7第8号) 武蔵野市内の小・中学校における「いじめ」をなくす取組に関する陳情	
受理年月日	令和7年11月18日
陳 情 者	一般社団法人 共存共栄クラブ 代表 伊藤 豪
陳 情 の 要 旨	
<p>「いじめ」は、相手に肉体的・精神的苦痛を与え、勉強に集中できなくさせ、学力を低下させ、不登校にし、相手の人生を狂わす、とても重大な問題行動です。それは、重大な人権侵害であり、絶対にやってはならないことです。</p> <p>私は、この「いじめ」を減らすためには、以下のことを実施する必要があると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治体の小・中学校における月間、年間の「いじめ」の認知件数を、自治体のホームページで公開すること。</li> <li>・その数値から数値目標を設定し、それもホームページで公開し、地域住民と共有すること。</li> <li>・地域住民と協力して、その目標を達成する努力をすること。</li> </ul> <p>これらが必要な理由は、「いじめ」をなくす上で最も重要なのは、地域住民の努力だからです。</p> <p>学校において「いじめ」をするのは、自治体の職員でも学校の先生でもなく、生徒です。また、生徒が「いじめ」をする一番の原因は、家庭において、道徳教育が十分に行われていないからです。子どもの人格形成に最も強い影響を与えるのは両親であり、家族です。ですから、「いじめ」をなくす上で、学校における道徳教育を充実させることは重要ですが、「家庭における道徳教育を充実させること」のほうが重要なのです。また、子どもたちと接点があり、身近な存在である地域住民による「見守り」や「声かけ」が重要になるのです。</p> <p>「いじめ」をなくす活動の主役は、あくまで地域住民です。ですが、ほとんどの人は、自分が住んでいる地域で、どれくらい「いじめ」が起きているのか、知る方法がないので、それを知りません。そのため、「いじめ」を意識する機会がありませんし、それをなくす努力をすることもありません。</p> <p>私は、市町村レベルの「いじめ」の認知件数を公開すれば、多くの人が、「いじめ」を今よりも「身近なこと」「自分ごと」として捉えるようになると考えています。このような考えから、私は以前、複数の自治体に電話をかけ、「『いじめ』の認知件数を、自治体のホームページで公開するべきだ」と訴えたことがあります。そのときの回答は、いずれも「それはできません」というものでした。理由は、「市の『いじめ』の認知件数を公開すると、学校や関係者が特定されるおそれがあるから」というものでした。</p> <p>私は、その考えは間違っていると思います。そもそも、「いじめ」は、とても重大な問題行動です。それが、年間73万2,568件以上も起きていて、しかも改善する兆しが見えないというのは、深刻な社会問題です。</p> <p>それなのに、それを解決することよりも、学校や関係者が特定されないようにすることを優先させるというのは、明らかに間違っています。</p> <p>また、「学校や関係者が特定される」といいますが、公開するのは、あくまで認</p>	

知件数なので、簡単に特定されるわけではありません。認知件数から、それらを特定しようとする人は、ほとんどいないと思いますし、特定しようとして特定できるものでもありません。

逆に、ニュースになるほどの「いじめ」の場合、ニュースによって地域や関係者が公開されますし、関心を持った人が、ＳＮＳ等を駆使して、学校や関係者を特定し、ネットで公開することもあります。つまり、自治体のホームページで公開しなくても、特定されるときは特定されるのです。つまり、公開することによって、特定される可能性が格段に高まるということではないのです。

「いじめ」が、年間73万2,568件以上も起きているというのは、非常に深刻な状況です。この状況を改善するために、武蔵野市には、小・中学校における月間、年間の「いじめ」の認知件数を、ホームページで公開してほしいです。

以上のことから武蔵野市議会に対し、以下のことをすることを求め陳情いたします。

#### 記

- 1 武蔵野市内の小・中学校における月間、年間の「いじめ」の認知件数を、武蔵野市のホームページ内の目につきやすいところに公開すること。
- 2 その数値から数値目標を設定し、それもホームページで公開し、市民と共有すること。
- 3 市民と協力し、その目標を達成する努力をすること。